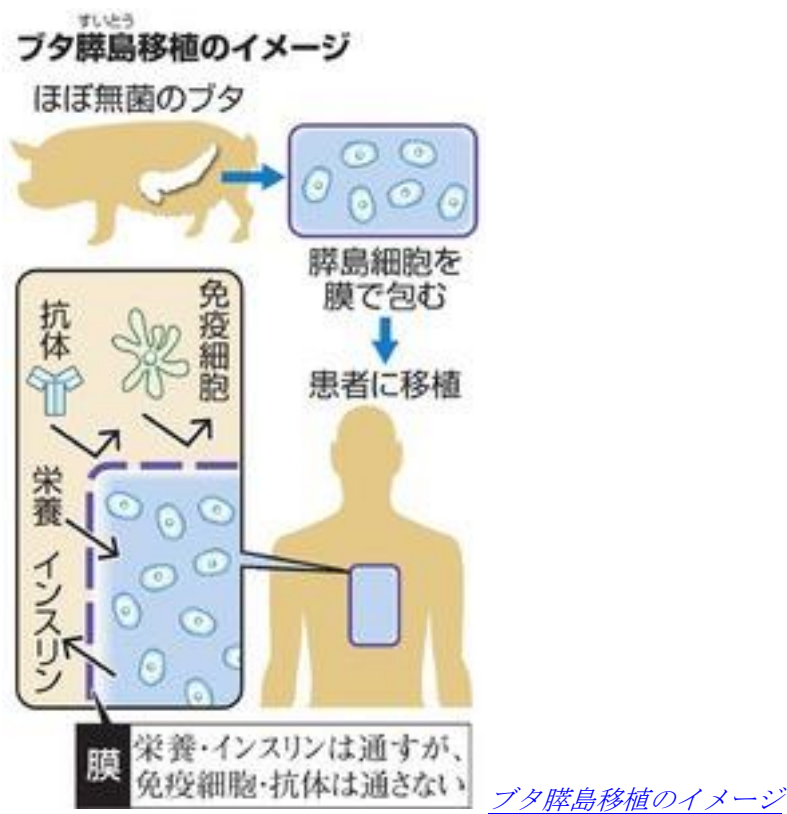


ブタ細胞、人に移植容認へ 1型糖尿病の患者が対象

野中良祐

2016年4月10日 05時30分



動物の臓器や細胞を人に移植する「異種移植」について、[厚生労働省](#)の研究班（班長＝俣野哲朗・[国立感染症研究所](#)エイズ研究センター長）は、これまで事実上、移植を禁じていた指針を見直す。国内の研究グループは数年後にも、1型[糖尿病](#)の患者にブタ細胞の移植を計画。患者にとって[インスリン](#)注射の重い負担を減らせる可能性がある。

異種移植は、人からの提供不足を解決する手段として世界で研究されている。臓器の大きさや管理のしやすさから、ブタがおもな対象で、近年は細胞を使って強い拒絶反応を避ける技術が一部で実用化。海外では人の治療に応用され始めている。

国内では、厚労省研究班が2001年度に作った指針で、ブタが進化する過程で遺伝子に組み込まれたウイルスを「人への感染の危険性が排除されるべき病原体」としている。取り除くことが難しいため、これまで移植が実施されたことはなかった。

だが、海外ではこのウイルスが人やサルに感染した報告がないことなどから、危険性の評価を見直し、新指針では移植後30年間経過を観察することを条件に、認めることにした。5月にも厚労省の部会に報告され、事実上の解禁となる。

国内初の臨床研究として、国立...

<http://www.asahi.com/articles/ASJ490BNBJ48PLBJ009.html>